

【第3回選考委員会会議録】

会議名	第3回公害総合情報システム構築及び保守管理業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和8年3月24日（火）10時～12時30分
開催場所	港区役所9階915会議室
出席者	出席者 4名 山辺委員長、高倉委員、甲斐田委員、菊池委員 欠席者 1名 太田副委員長
事務局	環境課 環境指導アセスメント係
会議次第	1 第2回選考委員会会議録について 2 二次審査（プレゼンテーション等）の実施及び事業候補者選考について 3 その他
配付資料	資料1 第2回選考委員会会議録 資料2 二次審査スケジュール 資料3 二次審査の実施に関する留意事項 資料4-1 二次審査業務委託採点基準表（A事業者） 資料4-2 二次審査業務委託採点基準表（B事業者） 資料5-1 A事業者 提案補足資料 資料5-2 B事業者 提案補足資料 資料6 一次審査集計結果 資料7 一次審査・二次審査集計結果（※採点終了後、机上配付）
会議の結果及び主要な発言	
（発言者） 委員長	（開会の挨拶） 選考委員5名中1名が欠席です。 選考基準では、1次審査と2次審査の配点比率をおおよそ2対1と定めています。 そのため、出席者委員の配点比率を1.25倍にして、2次審査を行いたいと思います。 ご意見はありますか。 （委員一同、異議なし） （事務局より配付資料の確認）
委員長	1 第2回選考委員会会議録について 第2回選考委員会の議事録について、ご意見はありますか。 （委員一同、異議なし）
E委員	2 二次審査（プレゼンテーション等）の実施及び事業候補者選考について 【A事業者のプレゼンテーション】 システムは継続的に進歩することが望ましいと考えています。パッケージのバー

	ジョンアップはどの程度の頻度で実施していますか。
A事業者	セキュリティに関するアップデートは年1回程度の頻度で実施しています。機能面については1年から2年に1回程度の頻度でバージョンアップしています。
E委員	他社と比べた際の御社の最大の強みについて教えてください。
A事業者	パッケージは操作性や汎用性において利用者から高い評価を得ています。また、他自治体での導入実績が豊富であるため、その経験を踏まえ港区への導入もスムーズに進められると考えています。
E委員	汎用性や拡張性について、設計や開発において重視している点があれば教えてください。
A事業者	パッケージは、セルフカスタマイズできる仕組を重視して設計しています。特に帳票機能では Excel の雛形と設定シートを用いることで、プログラムを変更せずに項目追加などのカスタマイズが可能であり、この汎用性については利用者から高い評価を得ています。
E委員	企画提案書に記載されている国とのシステム連携について、工事案件に対して国及び港区へ複数の届出書を提出する必要がある場合を想定し、届出書の提出済・未提出を管理できる機能はありますか。
A事業者	Gビズや LoGo フォームと連携できるよう開発を進める予定です。国および港区の双方に提出が必要な書類について、内容の整合性をチェックする機能も備えていく予定です。
E委員	届出の提出有無はシステムで確認可能ですか。
A事業者	確認が可能です。
A委員	他自治体では平成13年頃からパッケージの導入実績があるそうですが、御社のシステムのパッケージは平成13年から使用されているのですか。
A事業者	現行バージョンのパッケージは約20年間使用されており、Web版以前のパソコンに直接インストールするシステムも含めると約30年の実績があります。長年の運用を通じて、十分な業務知識を有しています。
A委員	実績に挙げられている他自治体などのシステムについて、今回のシステムと同一のパッケージですか。また、名称は異なるものの、対象業務や内容は同じですか。
A事業者	多少違いはありますが、基本的には同じものです。
A委員	港区で現在使用しているシステムは約20年前と古いものですが、古いシステムから御社システムへの移行実績はありますか。
A事業者	他社システムからの移行実績はあります。特に重要なポイントはデータ移行であると考えており、どのデータをどこへ移行するかが最大の検討事項です。そのため設計段階において打ち合わせを重ねながら、丁寧に進めていきたいと考えています。
A委員	Gビズからのデータ取り込みを取込用 Excel を介することでGビズの仕様変更に対応している点は評価します。大きな変更にも対応可能と記載されていますが、取り込み用のフォームは区職員がすべて対応する想定ですか。
A事業者	区職員が対応できます。他自治体でのシステムへ CSV を直接取り込む運用では、Gビズのレイアウト変更が頻繁に起こり、その都度プログラム改修が必要でした。この課題を解消するため、取込用 Excel を作成し、区職員が変更に対応できる仕組を採用する予定です。
A委員	その対応は、区職員が実施可能ですか。

A事業者	職員は CSV の中身を確認し、Excel に貼り付ける、または項目の抽出を行うだけの作業になります。
A委員	システム構築に携わる予定の担当者は複数のプロジェクトを兼務しているようです。担当者の経験が豊富である点は理解していますが、実際に区で作業する担当者はどのような方を想定していますか。また、担当者は、基本的に現場には入らず、プロジェクト管理を中心に担当する体制ですか。
A事業者	プロジェクトマネージャーは全体を統括します。もう一人はリーダーとして実務を担当するほか、他のメンバーへの指示出しも行います。
A委員	他の担当者は兼務での対応ですか。港区専任で対応する担当者はいますか。
A事業者	専任は2名程度を予定しています。
D委員	御社システムの未対応の機能について、他自治体等から寄せられている要望があれば、教えてください。
A事業者	電子申請との連携が要望されています。紙で受け付けて手入力することは非効率であるため、電子申請と連携して入力を自動化したいとの要望です。また、国は法令にかかる届出をGビズ等の電子申請で集約する検討を進めているため、電子申請との連携を既存のシステムの標準仕様で対応していきたいと考えています。
C委員	職員の負担軽減について LoGo フォームとの連携によりデータ連携する旨の説明がありますが、具体的にどのようなことを考えていますか。
A事業者	LoGo フォームから届出内容を CSV で出力し、システムへ一括データ入力することを考えています。
C委員	システムで保有する情報の情報公開請求に応じる際、一定量の情報を公開する場合がありますが、その際に必要となる個人情報の匿名化を手作業ではなく一括で行うことが可能ですか。
A事業者	帳票の雛形において、該当欄自体は設けたままにしつつ、その項目を出力しない、または予め黒丸などで置き換える対応を行うことの匿名化は可能です。また、個人情報など出力したくない項目については、予め定義から外しておく対応も可能です。
C委員	取込用 Excel ファイルを使ったシステムの実績はありますか。
A事業者	実績はあります。
C委員	取込用 Excel ファイルを使ったシステムの問題や利点はありましたか。
A事業者	国のデータをダウンロードして内部システムで管理することで、そのシステム内で処理が完結します。その結果、データ検索の利便性が大きく向上しました。
C委員	導入されたのは何年前ですか。
A事業者	令和6年度に導入しました。
A委員	年1回程度バージョンアップする可能性があるとの説明がありましたが、他自治体においても同様の頻度でバージョンアップを行っていますか。
A事業者	はい、行っています。
A委員	全体で共通して必要な機能として判断した場合は、標準機能として対応するのでしょうか。
A事業者	基本的にはそのように対応する予定です。
	【B事業者のプレゼンテーション】
E委員	システムは継続的に進化することが望ましいと考えています。パッケージのバー

	ジョンアップはどの程度の頻度で実施していますか。
B 事業者	制度改正対応として年に1回は行っており、状況に応じて、年2回程度実施しています。
E 委員	制度改正以外で、直近でバージョンアップの事例があれば教えてください。
B 事業者	操作性向上のためにメニューを左側に配置するなどの機能改善を実施しました。
E 委員	国の制度改正に合わせた様式変更は、通常の保守範囲で対応可能ですか。
B 事業者	保守範囲内の対応になります。また、国の様式であっても区独自の運用に合わせて一部変更することが可能です。
E 委員	一つの工事現場で複数の届出を提出する場合がありますが、提出済み・未提出といった状況をシステム上で管理できる機能はありますか。
B 事業者	石綿関連については、必要に応じてチェックできる機能があります。また、窓口受付、Gビズ、LoGo フォームなど複数の受付経路からの申請については、事前にキー情報を設定することで重複するデータを取り込まないようにする仕組みも備えています。
A 委員	御社のシステムは、ライセンス料がかからず構築費用は安い一方、保守料が高いと感じました。その保守料には機能変更や国が提示するGビズ関連ファイル対応などを含め、基本的にパッケージとしてすべて保守内で対応する料金体系になっていますか。
B 事業者	保守内で対応します。今回は内部情報系仮想化基盤上に構築する予定であり、区役所で作業を行います。またサーバ管理や運用チェックなどの定期的な保守点検を実施し、その内容を定期的に港区へ報告します。保守料は、これらの総合的な年間の保守作業を含めた費用となっています。
A 委員	導入時プロジェクトの打合せには、営業担当は出席しますか。
B 事業者	プロジェクトの会議については、営業担当も同席します。
A 委員	管理担当者は提案書作成など他の業務やプロジェクトも担当していると記載されていますが、他プロジェクトとの兼ね合いを含め対応に問題はないですか。
B 事業者	兼務している業務は、他自治体の運用保守業務であり、業務に影響はないと考えます。
A 委員	港区専任として対応する担当者はいますか。
B 事業者	港区専任の担当者を配置します。また、他自治体で同様の業務に携わる者を業務担当者として配置するため、業務担当者は能力や経験があり、対応には支障はないと考えています。
A 委員	提案書の機能要件にはA～Dの区分がありますが、Dとなっている項目については、カスタマイズ対応が可能と考えてよいでしょうか
B 事業者	はい、機能要件において対応できない項目はありません。Dとなっている項目は、カスタマイズで対応可能です。
D 委員	今回提案されたパッケージでは実装されておらず、他の導入自治体から要望が出ている機能があれば教えてください。
B 事業者	他自治体から強い要望がある機能ではありませんが、提案書にも記載した新機能として「メモ機能」の追加を検討しています。このメモ機能は港区側でどの項目や画面に表示するかをカスタマイズ可能です。項目単位だけでなく、画面単位で運用ルールや注意点を記載できるため、人事異動時の引き継ぎや、独自操作マニュアルの代替としても活用できる機能として提供したいと考えています。

C委員	カスタマイズなどの工夫を行っている中で、自治体から要望はあったものの結果として対応できなかった、あるいは対応しなかった事例はありますか。
B事業者	自治体からの要望に対して対応できなかった事例はありません。システム構造を踏まえたうえで最適な方法を提案し実装しています。 追加要望として提案する機能の中には導入自治体によっては使われない場合もあります。そのため不要な機能については取捨選択が可能で、機能を実装するかどうかは港区側でカスタマイズできます。
C委員	港区では手書き申請書を職員がシステムに手入力していますが、職員の作業負担を軽減できるような提案はありますか。
B事業者	該当する機能はありませんが、今後のAIの発展を見据えスキャンした書類データをAIで自動読み取りし、項目ごとにファイル化したり直接データベースと連携したりする仕組みを現在検討しています。
C委員	システムで保有する情報の情報公開請求に応じる際、一定量の情報を公開する場合がありますが、その際に必要となる個人情報の匿名化を手作業ではなく一括で行うことが可能ですか。
B事業者	システムにはEUC機能があり、条件を指定してデータを簡単に一覧出力することができます。条件設定はテキスト入力だけでなく、ドラッグ&ドロップ操作で行えるほか、出力項目や順序も柔軟に設定可能です。個人情報を含むデータは、一度Excel形式で出力したうえで該当列をマスキングや削除することで、必要な情報のみを一括して匿名化し活用することができます。
C委員	住所項目について、「番地」や「号」を出力するかしないかをこちらで選択できますか。
B事業者	住所項目は、最下位の項目まで出力しなければ、住所の後半部分を非表示にした状態で出力することが可能です。
委員長	(事務局から集計結果発表) 講評をお願いします。
D委員	A事業者は、過去3年以内で他自治体での導入実績が1区のみである点が気になりました。また、画面の視認性が低く、区職員が継続的に操作するには負担が大きいと考えました。
E委員	帳票を現場で自由にカスタマイズができる一方で、Excelマクロ等を用意する必要があり、現場負担が大きくなる点も懸念されます。B事業者は画面の視認性が高く、23区での構築実績が多い点が評価ポイントです。加えて機能改善をこまめに行い、要望にも柔軟に対応している印象があり、総合的に高く評価しました。
C委員	業務負担の観点から職員側で柔軟に設定できるか、もしくは事業者側で制度改正対応まで含めて対応してもらえるかは重要と考えています。特に国の制度改正への対応については、事業者側で整備する方が業務負担は小さいと判断しました。その点を踏まえB事業者の評価を高くしました。また事業者の姿勢として、職員やユーザーにどれだけ寄り添っているかという点でも、B事業者の方が誠実さを感じたため、その点も評価が高くなっています。
C委員	基本的な入出力機能自体には大きな差はないものの、出力部分のインターフェースや操作性については、B事業者の方が直感性に優れていると感じました。特にマニュアルに頼らず、メモや概要ポイントを区の要望に合わせて実装できる点は、職

A委員	<p>員の負担軽減や分かりやすきの面で評価できます。A事業者は長年の実績を評価できる一方で、出力面での改善提案が十分でない印象を受けました。その点、B事業者は受け答えが迅速で、こちらの意図を理解した対応ができており、新しい取組や有用な機能を創造的に開発していこうとする姿勢が感じられました。</p>
委員長	<p>B事業者はシステムの世代が新しく機能面でも優れていることが明確でした。A事業者は実績があり必要な機能は備えている印象でしたが、B事業者は機能要件に関してカスタマイズ対応が可能であることを確認できた点が評価につながりました。保守費用についてはやや懸念はあったものの、長期利用を前提とし必要な機能強化を行うのであれば相応の経費がかかることは妥当と判断しました。</p>
委員長	<p>一次審査の時点で、B事業者の評価が高く、一次審査と二次審査の合計でも同様の評価結果でした。</p> <p>B事業者を事業候補者として選考することとしますが、よろしいですか。 （委員一同、異議なし）</p> <p>B事業者を事業候補者として選考します。</p>
	<p>3 その他 （事務局より事務連絡） （閉会の挨拶）</p>